

心豊かでたくましい児童生徒を育む

小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば

vol.23

三戸小学校の校舎が 生まれ変わりました

6月から始まった三戸小学校の大規模改造工事が2月で完了しました。今回は、新しく生まれ変わった校舎の概要について、お伝えします。

ることが可能になりました。

◆メディアセンター※1

図書ラウンジの向かい側にあった学習センターを改修して、半分は書架と読書スペースを確保し、残りの半分はタブレット型のパソコンを使った一斉授業が可能なテーブルと椅子を設置します。また、冷房も完備されましたので、夏休みの学習会などでの利用も快適です。

さらには、床をじゅうたんから木質系のフロアに張り替えたことにより、内履きを脱がずに利用す



メディアセンターのようす (テーブル椅子設置前)

◆エレベーターの設置

昇降口左手の中央階段脇にはエレベーターが設置され、車いすやけがをしている人も利用しやすいバリアフリー対応となりました。



昇降口近くに設置されたエレベーター

※1 メディアセンターとは
これまでの読書センター機能としての学校図書館にコンピュータを設置し、子どもたちの問題解決学習を支援する学習センターとしての機能を持たせたものです。
あふれる情報の中から、本当に必要な情報を選択し、主体的に自らの考えを築き上げていく能力の育成を目的に、全国の小中学校に設置されています。

三戸町の場合は、コンピュータ教室も隣接しているので、2クラスが同時に調べ学習をすることも可能です。

◆寒さ対策

蓄熱式暖房機は新校舎と同じものに更新され、熱量比で暖房効率も2割向上しました。さらに、ほぼ全てのサッシがペアガラス化され、断熱効果が大幅に改善されています。これとは別に、冬場には



サッシを更新し、ペアガラス化



間仕切りのスライドドアを設置



トイレ前のプライバシーガラス

◆トイレ

入口には、中が見えないように

なかなか暖まりにくかった1・2年生の教室は、中庭に面した活動スペースとの間に、間仕切りのスライドドアが設置され、断熱性を高めています。
これらは、子どもたちの学習環境を改善すると同時に、地球温暖化も配慮した設備であり、新校舎に設置された太陽光発電パネルとあわせて、文部科学省が進める環境を考慮した学校施設（エコスクール）としての機能を持ちます。

◆昇降口の足箱

以前は長靴やスポーツシューズなどが入りきらずにはみ出していた足箱も、大きめのものに取り替えたことで、しっかりと収納できるように改善されました。

知的障害学級・情緒障害学級・通級指導教室※2の全ての教室が専用設置されている学校は、県内でも三戸小学校だけです。さらに、今回の工事では7・9年生用の教室が増築されています。

◆特別支援教室

施設面では、自立活動を支援するためのさまざまな施設の設置、保護者との相談スペースの確保や、専門の医師がマジックミラー越しに日常生活を観察し、適切なアドバイスができる設備など、特別支援学校に引けをとらないものになりました。

指導面でも、個別の支援計画をつくり、中学校も含め9年間継続した支援が受けられるのは、三戸町の小中一貫教育の大きな特徴であり、小規模の特別支援学校があ

るのと同じ機能を持ちます。さらに、特別支援学級の担任のほか、



改修後



改修前

下足箱の改修前後の比較

町独自で配置している支援員の指導により、一人ひとりを大切にす
る教育が実現可能になりました。

※2 通級指導教室とは

通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度の言語障害や難聴、情緒障害、弱視、肢体不自由、病弱などのある児童生徒を対象として、特別な場で特別な教育課程によって指導を受ける制度です。

平成18年にいわゆる「通級制の弾力化」が図られ、自閉症、学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）も対象とされるようになっていきます。

◆新たな伝統の幕開け

建設から27年が経過した三戸小学校ですが、諸課題に対応できるよう各種の設備が更新され、これまでの伝統を受け継ぎながらも、新しい施設一体型の小中一貫学校の初等部・中等部（1～7年生）校舎として生まれ変わりました。